

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2025年1月25日(土) 10:00~12:00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【学生】東
 【院生】伊藤
 【現職教員】平田(纏向小)
 【万葉文化館】井上、中本
 【大学教員】米田、加藤、大西 計8名

◇内 容 学習指導案の検討

1. 伊藤 輔先生(高取町立たかむち小学校:専門職学位課程教職開発専攻M1)

小学校6年国語科「仮名の由来はどこから? ~万葉仮名から学ぶ私たちの言葉~」

【立案にあたって】

学習指導要領にある「仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること」は、教科書だけで可能なのだろうか…

以前は教科書に掲載されていた万葉仮名一覧もQRコードから自分で見に行くようになっている

→全く見ない子どももいるのではないか

→万葉歌碑が数多くあり、万葉仮名について学べる地理的条件を生かしたい

【構想】

○春の遠足(明日香村)で歌碑マップをもとに万葉歌碑を探し、書いている文字について疑問をもつ

○万葉集や万葉仮名について学ぶ 万葉文化館見学、研究員の方から話を聞く

○仮名の由来について学び、万葉仮名と平仮名・片仮名の共通点や違いについて考える

○木簡に、大切な人へのメッセージを書いてみる

なぜ、昔の人は万葉仮名を使って言葉を伝えようとしたのか考える

【意見交流から】

・そもそも「万葉仮名」というものはなく、外国の文字を自国の言葉に一字一音で充てた字をそのように分類しているだけ。いろんな万葉仮名があるが、その一部を教科書に掲載している。

・それがいちばん分かるのが万葉集である。

このあたりの話を研究員の方からしてもらおうとよいのでは。

・子どもの疑問を大切にしたい。

(例)教科書に掲載されている万葉仮名一覧は、それがすべてなのか?

平仮名と片仮名はどっちが先? 外来語を片仮名で書くのはいつから?

漢字も含め、3つの文字を持っているのは日本だけ?

・暴走族なんかの「夜露死苦」も、見方を変えれば万葉仮名と同じ発想かも。

・「仮名」はその字の通り仮のものであって、「真名」(漢字)のもつ意義を改めて問うことも大事。

・最初のフィールドワークでは、ワークシートを用意し、歌碑の形に枠をとる。そこに何と書いているか、文字や意味は分からずともその通りに書いてくるようにすれば面白いと思う。

2. 田中愛花さん（国語教育専修3回生）・・・当日欠席

中学校3年国語科「万葉の世界から今へ ～過去・現在・未来へ思いよ届け～

【立案にあたって】

入江泰吉は万葉の人々の強い思いに心を打たれ、万葉の人々の心情を写真に映し込もうとした

→万葉集で表された万葉の人々の思いは、芸術家の作風まで変えてしまった

1300前に生きた万葉の人々が思ったことや感じたことは今の我々にも繋がるものがある

万葉の人々が感じたことをありのまま歌に表したように、生徒も自分の考えをありのまま文に表して、周囲に思いを伝える力を伸ばすこと

→本単元の学習を通して魅力的な文章の書き方を学んでほしい

【構想】

○「あをによし 奈良の都は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり(小野老)」

入江泰吉について知る

この歌に合わせた写真を見て、自分が思い浮かべていた風景と同じか異なるかについて判断し、その理由を考える

○万葉集についての基礎知識を研究員の方に話してもらう

○万葉集の歌の鑑賞（「奈良の地名が入っている、相聞歌、太宰府で詠まれた」 一つ以上を満たす）

入江泰吉が撮影した写真がある

①百伝ふ磐余の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ(3-416 大津皇子)

②神風の伊勢の国にもあらましをなにし来けむ君もあらなくに(2-163 大伯皇女)

③今朝の朝明雁が音聞きつ春日山もみちにけらしわが心痛し(8-1513 穂積皇子)

→説明に「言繁き里に住まはずは今朝鳴きし雁にたぐひて行かましものを(8-1515 但馬皇女)」を使う

④夏野行く小鹿の角の束の間も妹が心を忘れて思へや(4-502 柿本朝臣人麻呂)

⑤月立ちてただ三日月の眉根搔き日長く恋ひし君に逢へるかも(6-993 大伴坂上郎女)

⑥ふりさけて三日月見れば一目見し人の眉引思ほゆるかも(6-994 大伴宿禰家持)

⑦藤波の花は盛りになりけり奈良の都を思ほすや君(3-330 大伴宿禰四綱)

⑧わが行きは久にはあらじ夢のわだ瀬にはならずて淵にあらぬかも(3-335 大伴宿禰旅人)

→説明に「父母が頭搔き撫で幸くあれて言ひし言葉ぞ忘れかねつる(20-4346 丈部稲麻呂)

○それぞれにあった入江の写真の鑑賞する

「なぜその写真を撮ったのか？」

○この中から好きな歌と写真を選び、紹介文を書く

相互鑑賞、冊子にまとめる

【意見交流から】

・取り上げる歌は、相聞・挽歌・季節の歌というグループではどうだろうか。

①②は挽歌の部類になる。

・写真の力を借りて「万葉集を味わう」という方がいいのではないか。

いろんな説があるような歌を取り上げて、自分なりの解釈と入江の解釈を比べてみたり…

・紹介文はハードルが高いように感じる。

→意見文や感想文でもよいのでは。

